

報道発表資料
平成27年6月15日
気象庁

第132回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動の評価

本日、第131回火山噴火予知連絡会（平成27年2月24日）以降の全国の火山活動について検討を行い、結果を以下のとおり取りまとめました。

全国の主な火山活動

今期間（平成27年2月24日～6月15日）、口永良部島、桜島、西之島、阿蘇山、諏訪之瀬島で噴火が発生しました。

口永良部島〔噴火警報（噴火警戒レベル5）〕については別に「口永良部島の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

御嶽山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3）〕については別に「御嶽山の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3）〕昭和火口の噴火活動は、活発な状態で経過しました。火山灰の噴出量は2015年1月から4月までで320万トンと多くなっています。噴煙の高さの最高は火口縁上4,300m、大きな噴石は最大3合目（昭和火口より1,300～1,800m）まで達しました。

地殻変動観測では、桜島島内で2014年12月下旬頃から山体の隆起と膨張と考えられる変化が継続しています。今後、多量の火山灰を降らせる噴火が発生する可能性があります。また、始良カルデラ深部では長期的に膨張が進行してきており、引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられますので、火山活動の推移に注意してください。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）〕西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いています。2015年5月20日時点で、新たな陸地の面積は約2.6km²になっています。

島の中心から概ね4km以内では噴火に警戒してください。

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕2014年11月25日から始まったマグマ噴火は、2015年5月21日までは断続的に続いていたことが確認されています。GNSS連続観測では、深部のマグマだまりがあると考えられる草千里を挟むGNSS連続観測の基線で、わずかな伸びの傾向が認められていましたが、2015年3月頃から停滞しています。二酸化硫黄の放出量は、1日あたり800～3,700トンと多い状態で経過しています。

以上のように中岳第一火口では火山活動が停滞する傾向がみられるものの、活発な火山活動が続いていることから、中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が継続しています。湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面

で熱活動の活発な状態が継続しています。また、北側噴気地帯のガス組成及び湯釜湖水の化学成分の活動活発化を示す変化が継続しています。

草津白根山では火山活動が活発化しており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

吾妻山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕2015年1月中旬以降、地震回数は減少していますが、5月上旬には一時的な増加や火口側上がりの傾斜変化を伴う火山性微動もみられています。GNSS観測及びSAR干渉解析では、2014年9月頃から一切経山付近の膨張を示す変化がみられています。大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いており、地熱域のわずかな拡大傾向もみられます。

大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

蔵王山〔火口周辺警報（火口周辺危険）〕2015年4月に御釜周辺が震源と推定される火山性地震が増加し、火山活動が活発になりましたが、5月下旬以降は地震の少ない状態で経過しています。

2013年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014年10月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

箱根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕4月26日から火山性地震が増加し、活発な状態が続きました。5月3日以降、大涌谷温泉供給施設で蒸気が継続的に勢いよく噴出しているのを確認したほか、この付近では局所的な隆起を示すと考えられる変化も確認されています。傾斜計、ひずみ計、GNSSにより地殻変動も観測されています。

6月に入ったころから地震回数が減少しているものの、地震活動、地殻変動及び活発な蒸気の噴出が継続している間は、大涌谷周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大涌谷周辺では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰や小さな噴石が風に流されて降るおそれがありますので注意が必要です。

浅間山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2）〕火山性地震及び火山性微動が、2014年頃から増加する傾向がみられ、火山性地震は4月下旬頃からさらに増加しています。6月11日には火山ガスの放出量の急増もみられました。

火口から概ね2 kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

注) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

【本件に関する問い合わせ先】

気象庁 地震火山部 火山課（電話：03-3284-1749）

報道発表資料
平成27年6月15日
気象庁

第132回火山噴火予知連絡会 口永良部島の火山活動に関する検討結果

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続しています。今後も5月29日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

口永良部島では2015年5月29日09時59分に新岳火口から爆発的噴火が発生し、大きな噴石が火口周辺に飛散し、黒灰色の噴煙が火口縁上9,000m以上に上がりました。

この噴火に伴い発生した火砕流は、新岳火口からほぼ全方位に広がり、北西側は海岸（向江浜地区）まで、南西側では海岸付近まで、また南東側では中腹まで流下しました。

噴火後に火口底は深くなり火口壁の一部が消失しましたが、火口縁の西側割れ目及び南側割れ目の形状には大きな変化はないことから、今回の噴火は既存の火口内で発生したものとみられます。

また今回の噴火は、昨年（2014年）8月3日の噴火を超える規模と推定され、噴出した火山灰の分析からマグマ水蒸気噴火と推定されています。

噴火前の5月18日以降、最大M2.3の地震を含む地震活動の活発化がみられ、噴火の直後から同日の13時にかけて多数の地震が発生しました。また火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は5月中旬から減少し、5月下旬には1日あたり300～700トンでしたが、噴火直後は1日あたり3,800トンと非常に多くなりました。

5月31日以降は噴火は発生していませんが、現在も白色噴煙の活動は続いており、火山性地震も少ない状態ながら発生しています。二酸化硫黄の放出量も1日あたり1,200トンと多い状態です。

これらのことから、火山活動は活発であり、引き続き5月29日と同程度の噴火が発生する可能性があります。

大きな噴石の飛散や火砕流の流下が予想されますので、厳重な警戒（避難等の対応）が必要です。新岳火口の北西から南西にかけての沿岸海域でも、火砕流による影響が及ぶ可能性があるため警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要です。降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要です。

【本件に関する問合せ先】気象庁地震火山部火山課
電話 03-3284-1749

報道発表資料
平成27年6月15日
気象庁

第132回火山噴火予知連絡会 御嶽山の火山活動に関する検討結果

御嶽山の火山活動は低下した状態が継続しています。噴煙活動や地震活動は続いており、今後も火口周辺に影響を与える小規模な噴火が発生する可能性があります。

御嶽山では、昨年（2014年）10月中旬以降、噴火は観測されていません。噴煙は噴火直後に比べて減少した状態で経過しています。火山性微動は昨年12月以降観測されていません。火山性地震は減少していますが、昨年8月以前の状態には戻っていません。地殻変動観測では、火山活動の高まりを示す変化は観測されていません。

以上のように、御嶽山の火山活動は低下した状態が続き、昨年10月中旬以降噴火が発生していないことから、昨年9月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられます。しかしながら、弱いながらも噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年9月27日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できません。

火口周辺では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

【本件に関する問合せ先】気象庁地震火山部火山課
電話 03-3284-1749